

青年団が青春でした

高村 清美さん
主婦 富士見台(30歳)



結婚する以前住んでいた今泉で、私は青年団に2年ほど所属したことがあります。今から考えると、青春が一番花開いた時期であったように思います。

いろいろな世代の人たちと話をしたり、網引きやキャンプなどさまざまな行事を通して、私は男女の別なく親しさを増すことができました。

また、ある町内で歩行者天国をした

り、地区文化祭では太鼓を披露するなど、多くの地域の人たちと接することができました。

そして、地区の行事に「今泉青年団」と名が入っただけで、自分が何か大きなことをしたような喜びを感じました。

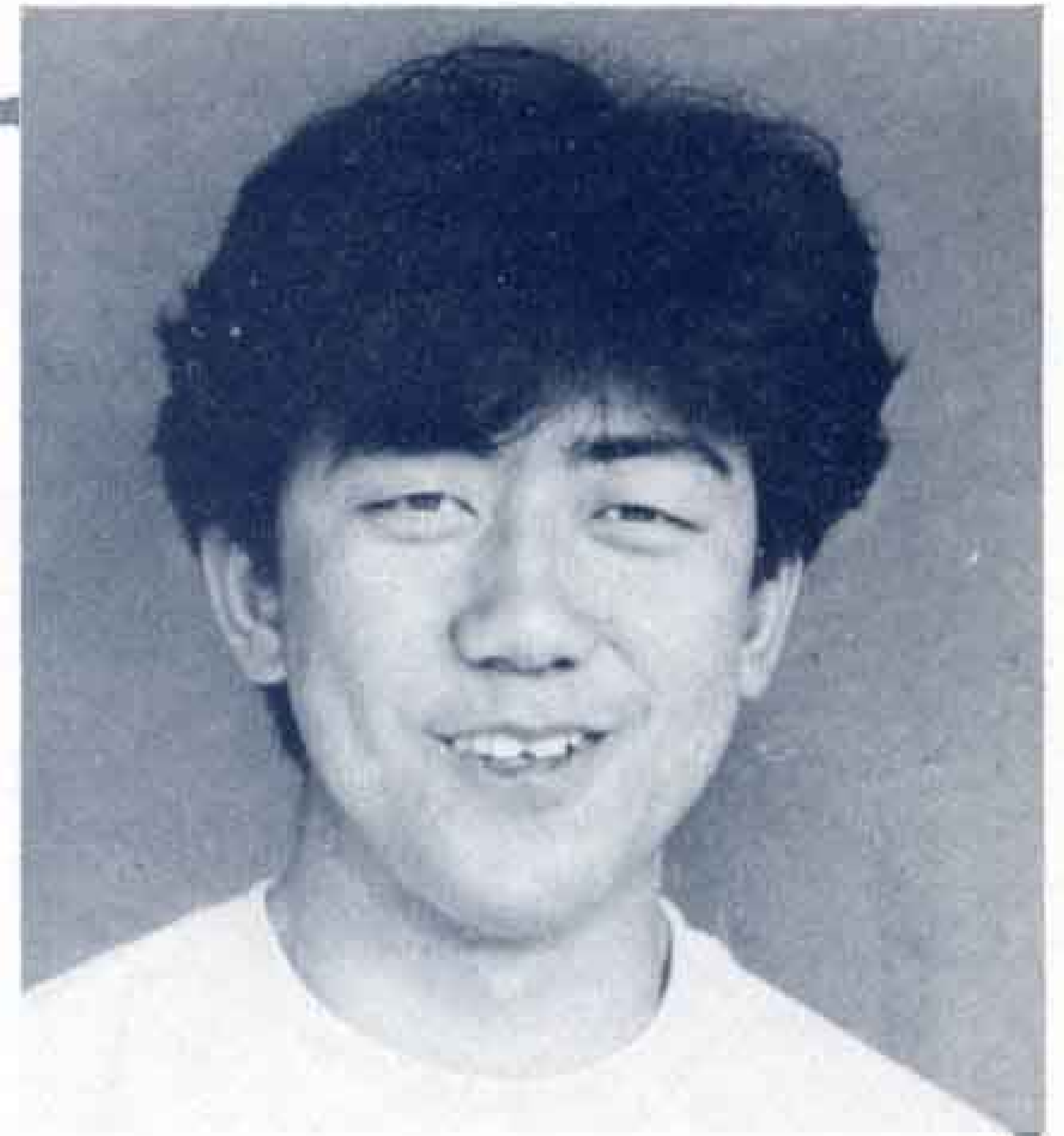
現在、青年団活動は衰退しているようですが、青年一人ひとりが社会参加することによって、その力を発揮してほしいと思います。

若者はもっと社会へ

秋山 春樹さん
農機具販売 中野(21歳)

田舎臭く、現代風に言えばナウくないイメージを持っていた青年団(大淵青春友の会といいます)に入って3年目を迎えました。その間、地区の社会教育推進会和協力して体育祭やマラソン大会等の行事に参加したり、カーブミラーの清掃奉仕を通して、自分の価値観が変わってきたと思います。

昔と違って世の中が豊かになるに



△大淵青春友の会の秋山さん

つれて価値観が多様化し、若者が飛びつきたくなるようなことが実にたくさんあります。

元暴走族の仲間がいます。彼は毎日オートバイをぶっ飛ばし、青春のエネルギーを燃やしていたわけですが、何かむなしさを感じるようになり青年団に入ってきました。今は、彼も地域の多くの人と接し、社会活動の楽しさを共に感じています。

今年は、国際青年年ですが、若者はもっと社会に飛び出して、社会の中の自分という存在を確認してみる必要があると思います。



交通安全協会富士支部の初代婦人部長

かとうあきこ
加藤秋子さん

中里(55歳)

ここ数年来、女性ドライバーの増加に伴ない女性の関係した事故が目立っています。女性自身に交通安全に対する関心と責任を持たせ、家庭内を核とした交通安全指導を進めようと、安協富士支部内にこのほど婦人部が発足。その初代部長に就任した加藤さん。須津地区の婦人会々長として交通安全に積極的に協力。

「お孫さん一人の六人家族。は、秋の交通安全運動で毎年、手製のマスコットをドライブに配布。『こんな活動が目についたのが須津の婦人会は熱心だとおだてられ、引き受けてしまいました。』と苦笑する加藤さん。「まだ発足したばかりで何の抱負もありません。』と言いながらも「家庭内で交通安全に対する話題を提示し、特に子供、お年寄りの指導者としての役割は、女性が果たさなければ」と早くも婦人部長として意欲を示す。